## 義援金の流れ

**義援金**は、災害により生命・財産に大きな被害を受けた方に対する見舞金の性格を持つもので、受け付けられた義援金は、被災された方々に全額が迅速かつ公平に配分されます。日本赤十字社の事業そのものを支援する**社資**や寄付金とは、その性質や使途が異なります。

義援金は、日本赤十字社だけでなく、報道機関など多くの団体が受け付け、第三者機関である義援金配分委員会（被災自治体・日本赤十字社・報道機関等で構成）に拠出されます。義援金配分委員会では、各機関で受け付けた義援金をとりまとめるとともに、配分基準を作成し、被災された方々へ配分を行います。

また、義援金を出された方には、税制上の優遇措置があります。

東日本大震災における義援金も、このような流れで被災者に配分されました。

**【出典】日本赤十字社ホームページ**

寄託者
↓
日本赤十字社　報道機関等
↓
義援金配分委員会
↓
市区町村
↓
被災者

## 日赤社資

東日本大震災での医療救援活動を始めとした**日本赤十字社**の活動は、社資や寄付金によって成り立っています。

皆さまからお寄せいただいた社資は災害救助活動・献血事業・赤十字ボランティア活動や国際活動などに役立てられています。

**日赤社資募金（香美市地区）へのご協力ありがとうございました**

**募金額**
**226万7,894円**（5月31日現在）

■問い合わせ先
福祉事務所 社会福祉班
☎53－3117

## おわりに

毎年、日本の各地で災害が発生し、尊い命が失われています。災害の発生を防ぐことはできませんが、日ごろの備えで被害は大きく抑えられます。

今回は土砂災害を中心にお伝えしました。災害には、地震・津波・台風・落雷などの自然災害のほか、原発事故やテロ攻撃などの人為的なものなどがあります。新聞やテレビなどの情報とあわせて、災害に備えましょう。

### 「イナイ」と覚えよう 災害用伝言ダイヤル

# 171

災害発生時には**災害用伝言ダイヤルサービス**が稼動します。家族や友人などの安否確認や、連絡等に活用できます。携帯電話でも利用できます。

**伝言を入れるとき**

1　171をダイヤル。
2　1をダイヤルし、被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番から入力。
3　伝言を入れる（30秒以内）

**伝言を聞くとき**

1　171をダイヤル。
2　2をダイヤルし、被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番から入力。
3　伝言を聞く。

**体験できます**

毎月1日・15日に体験利用ができます。

### 災害などの情報をすばやくキャッチ

# 緊急速報メール

緊急速報メールは、NTTドコモ・au・ソフトバンクの携帯電話向けサービスです。

国等が配信する災害・避難情報を被災のおそれのある地域にいる利用者へ配信する緊急速報システムです。対応機種であれば大半の機種は登録なしで受信できます。

香美市は、この緊急速報メールの対象地域になっています。

お問い合わせは各携帯会社へお願いします。



## 香美市文芸 風の流れ

**【短歌】** 岡崎　桜雲　選

鶏小屋の鍵の外れて出てゆきし鶏帰り来て餌をついばむ　小野寺朱実
手を握れと脳外科女医の差し出せる指の白さにとまどいにけり　小松　隆之
天性の輝きありて「ひまわり」のソフィアローレン名優なりき　森本　幸美
タイヤ交換真似する孫はジャッキすけ手つき腰つき格好一流　楮佐古きよ
青田の空を行きつ戻りつ巣作りの時季を迎えて燕忙し　鍵山　春子
母の日に送りくれたる姪よりの思いがけなきお菓子いただく　西尾　玉喜
吾にまだ驚く程の正義感通した夜は死ぬ程眠る　法光院俊子
年の差はあれど想いはひとつにて桜梅桃香交わりゆかん　門田　喜美
そのあとの仕事にかかはりし一年か今日み墓べに春蟬の声　坂上のぶ子
父の日に吾子より届くメッセージ梅雨の晴れ間の光のごとく　山崎　貴子
ありがとう嫁持ちくれし紫陽花の色とりどりに庭にゆれいる　門脇　千代
引っ越して山に来し猫竹の葉の舞い落ちくるを追いかけて捕る　小松　敏子
鯖読みで年を言えば皆驚きて「おんちゃん若いのう」嬉しくてつい　高野　和一
火を焚けば賢さわかると言いし母今も残れる釜に茶を炒る　岡田美代子
棕櫚縄の内に早乙女と競ひしは民話か田植機は乗用となる　大岸由起子
糸尻の汚れ恥づべきことと云ひこまかに磨きし母の指先　韮生　灯
コーラスの新たな歌に声はずむみなぎるパワー我は青春　谷内　務
はたはたと「フラフ」はためく五月晴すくすく育てすこやかなれと　公文　千恵
川向こうの山のなだりの新緑をしばし眺むるエンジン止めて　吉本　悦子
天空を鳥舞ひあそび木々萌ゆる大気ゆるがす災ひなかれ　武内　弘子
巡り来し桜の季節も終はりたり時の流れに打つ楔欲し　公文　正子
ランドセル背負える子らと乗り合わせ「お早うお早う」挨拶交わす　松中　賀代
姑かつて用ゐしわれの好みの皿朝夕の卓に夫へと出せり　古川　安子
百姓の大好きだつた母思ひ山峡畑の山菜を取る　門田　明子
山萌ゆる里は耕耘の音ひびき藤の花房水面にゆるる　林田　幸子
家持の作でありしか「海ゆかば」ゆきてかへらぬ屍を思ふ　竹村　咲子
「先に行けついて行くから」夫は言ふ散歩の道順わたしが決める　大石　綏子
木漏れ日の光かすかな山門にまなざしするどき仁王像立つ　小松　禮子
春くれば春の愁ひを夏もまた幾星霜をすごしきたりぬ　高橋　章
我が接ぎし枝垂れの梅は庭隅にうすべにの花やさしくつけて　山崎　緑
廃校の中に構えし喫茶店子等の歩みし廊下を歩む　竹村　稔美
子のまきし豌豆茂り花にぎやか莢もちらちら蝶のとびかう　横田直加子
「さあ歩め」明日はあしたの風が吹く土手の桜もひかりて飛びぬ　大石紗智子
若ものの心の内はそれぞれに賢明なるさま羨みて見つ　小松もとみ
食パンに抹茶アイスをつけて食べるみなみはお八つ鼻すすりつつ　古谷　由美
声あらげ庭の木の実を離れしに又戻る鵯雪の舞ふ朝　林　敏子
潮騒は崖の下より響ききぬのぞけば続く青き砂浜　佐々木真里
去年塗りしニスは役目を果たしをり庭に置く卓光あつめて　都築　初代
風邪ぎみの娘の姑は酒も飲み孫中心の居酒屋の鍋　伊藤　清子
雪の嘆き聞くなく過ぎて田沢湖に桜咲けるとけふは知らせ来　佐竹　玲子
次々と展示解説聴き進む我が目の前の故宮の秘宝　宮地　亀好
久々に足を延ばせし室戸岬早くも春の訪れ感ず　森本眞理子
被災地より参加の球児宣誓の一語一語に力みなぎる　明石　敬恵
うぐいすの鳴き声聞いて真似をするしかしそれきり応えてくれず　吉川　恵
この町を讃へし市民の投書あり文化ゆたかに人睦まじと　岡崎　桜雲

※掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、総務課内広報委員会事務局へご応募ください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）　FAX 53－5958